

JUDI 北陸ブロック

ブロック幹事

島津勝弘 Katsuhiko Shimazu

ブロックメンバー

(新潟県) 上山 寛 小見直樹 荘司洋文 関本雅和

(富山県) 安宅 恵 稲葉 実 島津勝弘 大丸英博 武山良三 柳原恭順

■ブロックの置かれた地域特性、課題など

北陸ブロックの4県は、いずれも日本海に面し、本州の背骨である山脈と日本海に挟まれた平野に、山から海に流れ込む急流河川によって扇状地が形成され、そこに人や物が集まり、都市が誕生した。そして、律令制の国府がおかれたり、戦国期に城下町が築造されたりして、地域の中心となる都市が育まれてきた。かつては北陸道や北前船によって、現在は北陸自動車道やJR北陸本線によって各都市は結ばれている。また、雪国であることや年間降水量が多く、日照時間が少ないことも北陸ブロックの各都市の特徴である。

また、北陸の各都市は海・山・川の地域資源に恵まれ、周辺に農村・漁村・山村を抱え、それらがワンセットになって地域を形成している。太平洋側とは異なった都市の成熟過程を経てきたため、歴史的な町並みが残ったり、独自の文化等を育んできたともいえる。

こうした、自然条件や社会条件を大切にしつつ、平成26年度末の北陸新幹線金沢開業を睨みながら、北陸ならではの持続可能な都市環境デザインを創造していくことが課題といえる。

■地域の都市デザイン、まちづくり等への現状の取り組みと活動概要

北陸の各都市は、高度成長期から現在において、太平洋側の各都市のような急速な開発が進まず、ゆっくりと緩変してきたため、古い町並みが残ったり、伝統文化が育まれたり、ヒューマンスケールな都市として成長してきた。各都市における都市デザインは、雁木など雪国の特性を活かしたものがみられるほか、まちづくり活動においても地域住民と行政や専門家の協働による事例が多くみられる。いずれにも、JUDIメンバーが多様な形で参画しており、ある意味、JUDIメンバーが北陸の各地域の都市デザインやまちづくり等をリードしたり、サポートしてきたともいえる。

北陸ブロックの活動としては、これまで各県持ち回りでフォーラムと会員発表会を年1回ずつ開催してきた。フォーラムは、市民や行政等を巻き込み、地域資源の保存活用や、北陸新幹線やコンパクトシティなどをテーマに開催してきた。会員発表会では、各メンバーの活動状況や課題を共有したり、意見交換したりすることで、会員相互の連携強化を図っている。また、主要なプロジェクトとしては、パブリックアートや北前船交易がもたらした「もと」と「こと」、自転車の似合うまちづくりなど、北陸ブロックとして共通の話題となるものを取りあげて、研究活動を行っている。

■ブロックとして、JUDIとしての課題解決の方策と今後の活動ビジョン

北陸ブロックは、地方ブロックでありながら、会員数は47名と増加傾向を示している。それは、会員個々が魅力的であることと、そして北陸ブロックの活動自体が楽しいこと、楽しい活動と素敵な仲間がいるから、人が人を呼び会員の増加に繋がっていると考えられる。

しかしながら、会員の高齢化が進んでおり、若手の会員の確保が課題といえる。また、会員同士の居住地や活動している場所が離れているため、全員が一堂に介して活動することが困難となっており、熱心に参加する会員がみられる一方、あまり活動に参加されない会員も存在することが課題でもある。

こうした課題に対して、学生に準会員として入会して頂いたり、メンバーが参加したいと思えるような魅力的なテーマを掲げて、フォーラムや会員発表会を継続していきたいと考えている。今後も会員が楽しめるブロック活動を重視しながら、他ブロックとの連携を通して、全国の会員同士の人的なネットワークを広げていきたい。

(石川県) 上坂達朗 北原良彦 木谷弘司 小泉 普 小間井孝吉 高田 実 谷 明彦 鏑 隆弘 徳本修一 道地慶子 中西雅大 中村芳明 新田川貴之 日出平千尋 福塚正浩 丸岡彦太郎 水野一郎 村田一也 森 俊偉 山岸敬広 埜 正浩 鳥越友香里(準会員) 中澤 俊(準会員) 宮里宜雅(準会員)

(福井県) 内村雄二 加藤哲男 川上洋司 倉橋宏典 坂田守正 下川 勇 玉森慶三 辻 隆治 土井直紀 野嶋慎二 峠岡 伸

北陸ブロックのおすすめ景観

機那サフラン酒本舗鏝絵の蔵 場所：新潟県長岡市撰田屋地区

「鏝絵(こてえ)」という漆喰のレリーフをちりばめた蔵。薬用酒であるサフラン酒の初代蔵元・吉澤仁太郎によって大正15年創建。

越後のミケランジェロと呼ばれる石川雲蝶の彫刻にも影響されている。

登録有形文化財(平成18年9月答申)



宿根木の集落 場所：新潟県佐渡市小木地区

江戸時代以降に西廻り航路の寄港地として繁栄した入り江に形成される集落。かつては北前船の船主や船大工たちが集住し、町並みは船大工によって造られた当時の面影を残す。石置板葺きで外観は質素だが、内部は漆塗りの大黒柱など豪華に仕上げられている。

重要伝統的建造物群保存地区(平成3年選定)



400年の伝統息づく鋳物師町 場所：富山県高岡市金屋町

今日のアルミ産業の礎となった鋳物産業発祥の町。今も江戸時代後期に立てられた千本格子(地元では「さまのこ」と呼ぶ)の町屋が残り、昔ながらの雰囲気を感じ出している。2012年4月に「鋳物師町」として伝統的建造物群保存地区に指定された。2008年からは、まちの歴史を支えた産業と景観を一体的に捉えた「金屋町楽市 in さまのこ」を開催し、暮らしに根ざした景観保存に力を入れている。



LRTが走行する景観 場所：富山県富山市中心地区

モダンな低床式路面電車であるLRT。2006年4月に富山駅北側から岩瀬まで旧JR富山港線をポータルに、また2009年12月に市内電車の環状線化が行われてセントラムが走行している。

北陸新幹線が開業後は、新しくなった富山駅で両者が繋がり、LRTを都市の装置として活用した賑わい景観がつけられることが期待されている。



北陸ブロックのおすすめ景観

加賀橋立の街並 場所：石川県加賀市橋立

加賀橋立は、江戸後期から明治中期にかけて隆盛を極めた北前船の船主、船頭、船乗りが集住した地区である。屋敷の敷地を囲む板塀、北前船により流通した笏谷石の石垣、赤瓦の屋根を持つ屋敷が特徴ある景観を形成している。

平成 17 年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、地域の高等教育機関による協力も含め、地域住民による保全活動が進められている。



赤瓦の屋根の建物群



笏谷石の階段と石垣



北前船船主の広い屋敷敷地と板塀

金沢もてなしドーム 場所：石川県金沢市

金沢の玄関口である金沢駅東広場には、訪れる人に傘を差し出すイメージで、金沢人のおもてなしの心を表わしたガラスドームがある。正面には、伝統芸能「宝生能」に使われる鼓をイメージした「鼓門」が構えているなど、2011 年米国誌で「世界で最も美しい駅」の 1 つに選ばれた。また、新幹線駅舎もゆるやかな曲面屋根を設け、開放的なガラス壁面でもてなしドームとの調和が図られている。



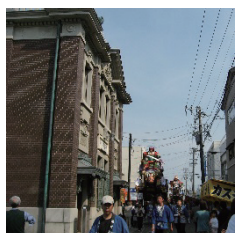
玄関口にそびえたつ鼓門



広がり感のあるもてなしドーム

北前船で栄えた湊町三国の町並 場所：福井県坂井市三国町

北前船の寄港地として栄華を極めた湊町三国。九頭竜川に沿って細長く延びるきたまえ通りには、格子が連なる豪商の屋敷跡や老舗名店が立ち並び、大正時代のモダンなコンクリート建築の旧森田銀行本店など、繁栄の姿が目に見えます。



北陸三大祭「三国祭」の山車と旧森田銀行本店



街歩きと文化発信の拠点として整備された三国湊座

繊維王国の名残を見せる料亭街「浜町」

場所：福井県福井市中央 3 丁目

古くは、福井藩の物流を支えた足羽川の港町、昭和に入って、「ガチャマン」と呼ばれた繊維王国福井の反映によって栄えた高級料亭街「浜町」。今でも、老舗と新店が軒を連ね、地元住民による景観整備が進みつつあります。足羽川沿いには桜百選の桜並木が連なります。



土塀や板塀が往時を偲ばせる浜町の高級料亭街



桜百選の足羽川の桜並木から浜町を臨む

北陸ブロック活動紹介

パブリックアートや街路空間のあり方

第 15、16 期には、「市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクト」をテーマに研究に取り組んだ。金沢のパブリックアートに携わる行政、アーティスト、JUDIメンバーなどが議論する場を設け、あるべき姿、設置の方法、将来への展望などについて議論した。具体的には、市民、学生、JUDIメンバーにより、各パブリックアートを評価し、その結果を元に、市民やアーティストを交えてフォーラムも開催した。本活動はメディア等に多く取り上げられた。



公募制プロジェクトでのパブリックアートの評価



CORPUS MINOR#1



FUGA

北前船交易がもたらした“もの”と“こと”

JUDI20 周年記念事業では、「北前船交易がもたらした“もの”と“こと”—その現代的意義の検証と再生」をテーマとして研究活動に取り組んだ。北陸の各地に寄港地や船主の集落があり、北前船交易は、各地の文化を育み、大きな影響を与えてきた。本事業では、北前船ゆかりの地を訪ね、地域の住民やまちづくり活動団体等と交流した。今後も各地との連携・交流を通して、その共通性・固有性を見出し、「北陸のしあわせな風景」として、守り・育み・創造していくことをブロックの継続的な活動としたい。



住民を交えた意見交換（北前船とまちづくりWS）

望楼のある伏木北前船資料館（旧秋元家）



自転車の似合うまちづくり

第 23 期の JUDI 公募制プロジェクトとして、鶴来地区で進めようとしている「自転車を活かしたまちづくり」を支援するために、「自転車の似合うまち鶴来」を目指し、都市デザインの観点から様々な提言、アイデアの提供、社会実験などを行った。住民、行政、学生 JUDIメンバーの参加により活動が行われ、メディアにも大きく取り上げられた。



自転車による鶴来まちめぐり（第 2 回）

